

レポートを毎回書くぞ と決意しました。

小野田 由美子 看護師（青山キャンパス）

1年半ぶりの乃木坂スクールです。講座の聴講にあたって「今度こそはレポートを毎回書くぞ」と決意しました。最初から時間切れではありますが、お送りします。

受講時のメモ

- 1 10を聞いて1つを選んで書く
- 1 人が財産 縁を大切に
- 1 つながり続けること
- 1 人と人をつなげる、結ぶ

人と人がつながってできた「患者の視点で医療安全を考える連絡協議会」の話から

- 1 死ななくていい医療事故で、8日に200人が死亡
- 1 シャンボ機の事故に匹敵
- 1 飛行機事故なら事故調がすぐ調べる
- 1 事故が起こっても、事故と言わない、調べない医療現場

医療事故ということばを聞くと、今でも、いつ自分が事故を起こしてしまうかという恐怖に近い感情を抱いて仕事をしていたことを思い出します。現在は臨床から離れていますが、仕事で間違いがあると、これが臨床だったら「事故」につながると思い、臨床でなくて良かったと思ってしまいます。

臨床にいる看護師は、そんなことを言っていたら仕事なんかできないというに違いありません。それを言ったら臨床から看護師がいなくなってしまうと。医療現場の安全は1人1人の医療者にかかっている。

測定する、検査する、記録や計算といった部分では器械化がされているとはいえ、その前後ですら人がしなければならぬ。看護や世話といった部分ではさらに人によった部分が大きい。人は間違える、と言われますが、だからこそ、間違いが起こらないシステムをつくってもらわなければ怖くて看護師はやっていられないと思います。

臨床では注射や与薬で看護師が確認しながら実施している。人間ですから見えても見えていないこともあります。そんな時器械であればアラームが鳴る。今どきこの店でもバーコードを使って仕事をしているのに…。

器械の導入ですべての事故が防げるとは思いませんが、器械を介在させることで防ぐことができるミスはあると思います。このミスはこれで防ぐことができると言ってあげられると、安心できる看護師もいるのではないかと思います。